

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172101095		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム江並「福寿苑」		
所在地	岐阜県大垣市外淵4丁目97番地1		
自己評価作成日	令和3年12月10日	評価結果市町村受理日	令和4年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosyoCd=2172101095-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和4年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様・ご家族様に安心して過ごしていただける終身型の施設です。認知症があっても、最後まで「人として生きる姿」が保てるよう、『利用者様本位「できる力で生き生きと!」』を施設理念とし、全スタッフ支援させて頂いています。特浴室を設けてあり、看護体制も確立しているため、重度の方も受け入れ可能となっています。現在はコロナ禍であり、介護度の高い方もみえ、活動に制限がありますが、各階でイベントを開き、少しでも楽しい時間を過ごしていただいています。

経営理念を基に、よりわかりやすい事業所理念を設け、利用者の持てる力を活かす支援を行なっている。家族アンケートを取り、運営推進会議録を送付して意見を出してもらい、利用者と家族に寄り添うよう工夫をしている。職員の個人面談を前期、後期と年2回実施して、日常でも意見をよく聞いている。事業所には看護師が常駐している。日常的に利用者と家族の要望を聞くと共に、終末期まで受け入れる体制を整えている。事業所において看取りまで行なっている。事業所は、地域の水害時避難待機所の役割を担っている。自治会長からは、災害時になにかあれば協力するから声を掛けて、と言ってもらっている。一般浴と別に機械浴があり、一般浴槽での入浴が困難な利用者も週2回の入浴をすることができている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ禍のため全体会議ができなくなってしまったが、各ユニット会議で利用者様本位のケアができているのか振り返り、ご利用者様の力を活かす支援ができるよう取り組んでいる。	企業の経営理念に基づいた事業所独自の理念をつくり、利用者のできる力を大切に介護を行なっている。月1度のユニット会議でその理念が実践できているかどうか管理者と職員は確認し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、ボランティアを招き入れることもできなくなり、以前より交流の場が少なくなりました。近隣の保育園からお手紙をいただいたり、こちらから塗り絵や貼り絵等の作品をプレゼントしたりと関わりが継続できるよう努めている。	コロナ禍で地域との交流は、直接にはできなくなった。保育園から園児のメッセージ付きの花が届けられ、利用者の作品をお渡しした。近隣の寿司店に特別メニューを注文するなど、出来る限り交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議が書面会議となっていますが、自治会長・民生委員・地域包括・市議会議員の方に事業報告書を送付させていただき、理解とご協力を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域や行政、ご家族様へ事業所の状況や事故報告を行い、書面ではありませんがご意見やアドバイスをいただいている。ご意見は全体会議録にて職員に周知できるように、またユニット会議で話し合う等し、サービスにつなげられるようにしている。	現在は運営推進会議を書面にて行なっている。会議のメンバーと家族に、事業所の状況や事故の報告を提出している。メンバーや家族からの返信による意見を、ユニット会議で話し合っ運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍のため、以前より市役所に行くことへの機会は減りましたが、電話や包括だよりを持参していただける機会に、事業所の空き情報や相談を行い、連絡を取っている。	市担当者とは電話やメールでのやり取りが多くなった。事業所の事故報告書は持参して提出している。その機会に直接面談をして、事業所の空き情報を提供し、コロナでの対応の仕方を相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議や資料を用い、身体拘束をしないケアについて再確認している。言葉使いや対応が気になる場合は、お互いに注意し、不適切ケアにつながってしまわないようにしている。	身体拘束の資料を用意してユニット会議で話し合っている。人感センサーを使った時には家族に連絡をし継続して報告をしていた。現在は使用していない。言葉によるものには管理者と職員が互いに注意し合っ身体拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止・ケアの質向上委員会が中心となり、身体拘束の実態やケアの状況について、トップマネジメント会議の場で報告する等、安易に拘束や虐待につながらないように取り組み、防止に努めている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の年間計画を立て、資料を全職員に配布・ユニット会議で行っている。また、必要に応じて制度を活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定時に説明を行い、書面にて理解や承諾を得ている。説明の際は、ご利用者様やご家族様の背景に配慮しながら対応できるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時や運営推進会議・家族アンケートで意見やご要望を伺い、会議で話し合い改善している。ご利用者様からご意見をいただけるような声掛け、雰囲気づくりに努めている。	利用者に声掛けをして要望などを聞いている。家族にはアンケートを取ったり、電話での連絡時や物品を持参された時に聞いている。出された意見や要望は会議で話し合い、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の個別面談を実施し、意見や提案を聴く機会を設けている。日ごろから相談しやすい関係づくりに努め、会議まで待てない案件については、その場で検討している。	年2回の個別面談や日常業務中に意見や提案を聞いている。勤務状況の確認や介助方法などに対する意見が出されている。コロナ禍で外出ができないためメニューを変えて気分転換する意見があり対応した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の事情を踏まえた雇用形態や休日希望の配慮を行い、働きやすい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修について年間計画を立て、実施するように努めている。また、日々のケアが振り返りできるよう、年2回は自己評価票を活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため、他施設との交流がなかなかできない状態ではあるが、トップ会議で勉強会や意見交換を行う等、サービス向上に向けた取り組みをしている。会議の内容は全職員に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に必ずご利用者様と面談を行い、ご本人様の困っていることや不安を傾聴し、寄り添えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前から、ご家族様の不安やご要望を伺い、ご家族様の立場に立って、支援ができるよう信頼関係の構築を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様のご意向を伺うと共に、認知症の進行度や身体状況を踏まえうで、必要な支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、ご利用者様に対し感謝の言葉、自尊心を高めあうような言葉かけを行い、ご利用者様の思いに寄り添いながら、共に支えあう関係を築けるよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と情報を共有したり、ご利用者様の意向を代弁しお伝えするなど、共に支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様、ご家族様からなじみの人や場所の把握に努めている。コロナ禍のため、外出や訪問していただくことはできないが、写真を持参していただいたり、忘れてしまわないよう、日々話題にしたりし、関係が途切れてしまわないよう努めている。	入居時に利用者と家族から馴染みの人や場所を聞いて記録している。日常生活の中でも折に触れてそれを聞くようにしている。利用者の外出と知人の訪問はないので、日々の話題に取り入れるよう工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が、ご利用者様の関係性を見極め、関わりを持ち、互いの距離感を調整しながら支えあえるように努めている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、状況によっては、再入所の手続きをお勧めしたり、必要に応じて困りごとの相談に乗れるよう、継続的な関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話やご家族様の話から、思いや意向を把握している。思いや希望を伝えていただけるようお声をかけたり、表情や動作からも気持ちを汲み取るようにしている。	利用者との会話や家族の話から、思いや意向を聞いて把握するようにしている。把握した内容を連絡ノートに記録し、職員が情報を共有している。習字を上手に書きたいとの意向から習字の機会を増やした。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の担当ケアマネや、ご利用者様、ご家族様からの聞き取りにて、これまでの生活歴や入所前のサービス利用状況等を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活状況をしっかり観察し記録に残すことで、いつもと違う変化や気づきを職員間で共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の意向をお聞きした上で、介護計画を反映、作成している。毎月、モニタリングとケース会議で支援状況やご状態を確認し、計画に沿ってない場合や状態変化時は計画を変更している。	利用者と家族から意見を聞き、担当職員がモニタリングをしている。ケース会議でカンファレンスをして介護計画を作成している。状態の変化や計画がモニタリングに沿っていないときは随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいた内容を介護記録に記載し、勤務交代時の申し送りや連絡ノートを活用し、情報を共有しながら、日々のケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じて、ご利用者様・ご家族様のニーズに対応できるよう心がけている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な訪問理容の利用や、ボランティアからいただいたDVD鑑賞するなどし、ご利用者様が安全で楽しく生活していただけるよう機会確保に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご本人様、ご家族様の意向を確認して協力医に変更し、訪問診療を受けている。専門医への受診はご家族が付き添い、ご利用者様の状態を電話かメモで伝え、報告を受けて情報を共有している。必要時は看護師が同行している。	入居時に利用者と家族の意向を確認し協力医に変更している。協力医の訪問診療が月2回ある。専門医の受診は家族が付き添う。家族に状況を伝え、受診結果を聞いている。看護師が同行する場合もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、介護を通して異常の有無を把握し、体調変化について、看護師に報告を入れ、医療的対応が受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は入所者サマリーにて情報提供をし治療中の生活に活かしていただき、退院時にはできる限りご利用者様の心身の負担がないよう、入院中の情報収集にも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に事業所の方針を説明し、ご本人様・ご家族様の意向を聴いている。状態変化に応じて、ご家族様と話し合い意向を確認し、書面を交わしている。終末期は医師・看護師からご家族様・職員に説明してもらい、方針を共有して取り組んでいる。	入居前に事業所の方針を利用者と家族に説明し、その意向を確認している。状況が変化した時に再度確認して書面を交わしている。終末期は事業所で看取ることができ、コロナ禍にあっても家族と面会してもらい一緒に過ごす機会を設けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会を行い、日ごろから各職員が適切に対応できるよう、介護職員間や看護師とも連携を図り、初期対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを活用し、年2回の防災訓練・水害時の訓練を実施している。2回目は夜間想定訓練。水害時は地域の避難待機所としている。	夜間想定を含め年2回の避難訓練をしている。水害時は事業所が一時避難所となることを地域に伝えている。いつでも協力をすると自治会長から言われている。非常食や水、毛布、おむつなどを備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助が必要な方であっても、トイレでの排泄時カーテンを閉め、外で見守り、ゆっくりと排泄できるように、プライバシーに配慮している。	トイレ誘導時の声の掛け方や排泄時の見守り方など、利用者の羞恥心に配慮し一人ひとりに合わせた対応を心掛けている。不適切な対応と思う時は職員が互いに注意し合い、人格を尊重するように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらの都合を押し付けず、些細な会話を聞き、思いや希望を表出していただける関係づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の体調に合わせた日常を過ごしていただけるよう個々のペースを大切に、表情や動作から気持ちを汲み取るよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所前に着てみえた衣類をお持ちいただいたり、入浴前にどの服を着られたいか一緒に服を選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや体調を考慮し調理をしている。簡単な下準備やテーブル拭き、下膳などは一緒に行っている。何を召し上がられたいか伺い、リクエストに応じて、食事を提供したり、コロナ禍で外食ができないため、テイクアウトを利用することもまれにある。	職員は、利用者の好みや希望を考え買出しや献立、調理をしている。利用者によっては別メニューのこともある。利用者は、下準備や味見、下膳を手伝っている。一緒におやつを作ったりテイクアウトを利用したりして、食事が楽しくなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂食・嚥下機能に応じた食事形態を考え、少しでも安全においしく食事をして頂けるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者様の自立度に応じ、支援している。ご状態に応じ、口腔ケアスポンジやガーゼを使用し、口腔内の清潔が保てるようにしている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを参考にし、その方の表情や行動を見て、トイレ誘導を行っている。ご状態に合わせ、トイレでの排泄の際、二人介助で行ったり、夜間も時間を見て、トイレ誘導を行ったりし、自立に向けた支援をしている。	排泄の自立している利用者には見守ったり、後に本人から聞いたりしている。扉を閉め忘れた時にはそっと閉めている。声掛けの必要な利用者には排泄記録や時間、表情、行動を見てトイレへ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段からヨーグルト・牛乳・果物等の食品を取り入れている。また、体操を行い、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調やその方の湯温等の好みを把握し、ゆっくりと入浴していただけるよう順番に配慮している。重度化されても入浴できるよう機械浴があります。	湯温や入浴順は一人ひとりの希望に合わせている。ゆず湯や入浴剤を使ったり、会話をしたりして、ゆっくりと入浴を楽しめるようにしている。機械浴があり、重度になっても週2回の入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や生活習慣に合わせ、居室内の温度設定等、心地よく眠れる、休んでいただけるように環境づくりをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が閲覧できるよう、効能・用法等が詳しく書かれたファイルがある。服薬支援時は、飲み忘れや落薬が無いよう、飲み込みまでをしっかりと確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、テレビ鑑賞、新聞の閲覧、簡単な家事など、個々に合わせた生活環境を整えられるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、希望に沿った外出や普段行けない場所への外出はできないが、気候の良い時は車いすの方も近所に散歩に出かけたり、苑内で野菜作りをしたりと季節を感じていただけるようにしている。	感染予防をした上で、現在は利用者が個別に職員と近隣を散歩している。車椅子の利用者も含めてどなたでも散歩をすることが出来る。季節によっては、苑内で野菜を育てたり水をやったりして、外気にふれる機会を設けている。	コロナ禍により現状自由な外出が困難である。感染の状況を見ながら、少しでも多く、外へ出る機会を増やしていただけるように期待したい。

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様との話し合いの中で、ご利用者様の思いを尊重し、対応している。コロナ禍であるため、買い物に出かけられないが、代わりに購入させていただいたときは、購入品をお見せし、希望に合っているか確認をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	外出や思うようにご家族様にお会いしていただけないため、以前よりもお手紙のやり取りで疎遠となってしまわないようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暑がりな方、寒がりな方、ご利用者様お一人お一人に確認し空調管理している。移動の際に支障がないように障害物を排除し、安全に移動していただけるようにしている。加湿空気清浄機を設置し、居心地よく過ごしていただける。季節のイベントや飾りつけを行い、季節を感じられるようにしている。	リビングに加湿器を置き、窓やカーテンの開け閉めをこまめにして室温や湿度、換気に気を配っている。利用者が行動する上で障害となるものには特に注意を払っている。貼り絵やカレンダーなどの作品を飾り、生活感と季節感を取り入れるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	落ち着いて過ごしていただける席の配置に心がけている。午前中は日当たりの良いところに椅子を設置し、日光浴ができたり、気の合う方同士、会話を楽しんでいただけるよう、食事以外は自由に座っていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が生活しやすいようにベッドや家具の配置をし、希望者は畳を敷くことも可能である。入所前に使用されておられた物を持ってきていただき、安心して過ごしていただけるようにしている。	テレビや筆筒、椅子など、使い慣れたものを持ち込んでいる。家族写真や誕生日の記念の色紙なども飾っている。畳を敷いている部屋もある。動線や安全を考えて、ベッドや家具を配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの持つみえる力に応じ、自立に向けた環境づくりに努めている。車いすを使用されておられる方も安全に生活していただけるよう、危険な物を置かない、設置の位置を考慮するなど対応している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172101095		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム江並「福寿苑」		
所在地	岐阜県大垣市外淵4丁目97番地1		
自己評価作成日	令和3年12月10日	評価結果市町村受理日	令和4年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosvoOd=2172101095-00&SerVi.ceOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橘町1丁目3番地		
訪問調査日	令和4年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ禍のため全体会議ができなくなってしまったが、各ユニット会議で利用者様本位のケアができていますのか振り返り、ご利用者様のできる力を活かす支援ができるよう取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、ボランティアを招き入れることもできなくなり、以前より交流の場が少なくなりました。近隣の保育園からお手紙をいただいたり、こちらから塗り絵や貼り絵等の作品をプレゼントしたりと関わりが継続できるよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議が書面会議となっていますが、自治会長・民生委員・地域包括・市議会議員の方に事業報告書を送付させていただき、理解とご協力を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域や行政、ご家族様へ事業所の状況や事故報告を行い、書面ではありませんがご意見やアドバイスをいただいている。ご意見は全体会議録にて職員に周知できるように、またユニット会議で話し合う等し、サービスにつなげられるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍のため、以前より市役所に行くことへの機会は減りましたが、電話や包括だよりを持参していただける機会に、事業所の空き情報や相談を行い、連絡を取っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議や資料を用い、身体拘束をしないケアについて再確認している。言葉使いや対応が気になる場合は、お互いに注意し、不適切ケアにつながってしまわないようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止・ケアの質向上委員会が中心となり、身体拘束の実態やケアの状況について、トップマネジメント会議の場で報告する等、安易に拘束や虐待につながらないよう取り組み、防止に努めている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の年間計画を立て、資料を全職員に配布・ユニット会議で行っている。また、必要に応じて制度を活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定時に説明を行い、書面にて理解や承諾を得ている。説明の際は、ご利用者様やご家族様の背景に配慮しながら対応できるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時や運営推進会議・家族アンケートで意見やご要望を伺い、会議で話し合い改善している。ご利用者様からご意見をいただけるような声掛け、雰囲気づくりに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の個別面談を実施し、意見や提案を聴く機会を設けている。日ごろから相談しやすい関係づくりに努め、会議まで待てない案件については、その場で検討している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の事情を踏まえた雇用形態や休日希望の配慮を行い、働きやすい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修について年間計画を立て、実施するように努めている。また、日々のケアが振り返りできるよう、年2回は自己評価票を活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため、他施設との交流がなかなかできない状態ではあるが、トップ会議で勉強会や意見交換を行う等、サービス向上に向けた取り組みをしている。会議の内容は全職員に周知している。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に必ずご利用者様と面談を行い、ご本人様の困っていることや不安を傾聴し、寄り添えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前から、ご家族様の不安やご要望を伺い、ご家族様の立場に立って、支援ができるよう信頼関係の構築を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様のご意向を伺うと共に、認知症の進行度や身体状況を踏まえうえで、必要な支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、ご利用者様に対し感謝の言葉、自尊心を高めあうような言葉かけを行い、ご利用者様の思いに寄り添いながら、共に支えあう関係を築けるよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と情報を共有したり、ご利用者様の意向を代弁しお伝えするなど、共に支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様、ご家族様からなじみの人や場所の把握に努めている。コロナ禍のため、外出や訪問していただくことはできないが、写真を持参していただいたり、忘れてしまわないよう、日々話題にしたりし、関係が途切れてしまわないよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が、ご利用者様の関係性を見極め、関りを持ち、互いの距離感を調整しながら支えあえるように努めている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、状況によっては、再入所の手続きをお勧めしたり、必要に応じて困りごとの相談に乗れるよう、継続的な関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話やご家族様の話から、思いや意向を把握している。思いや希望を伝えていただけるようにお声をかけたり、表情や動作からも気持ちを汲み取るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の担当ケアマネや、ご利用者様、ご家族様からの聞き取りにて、これまでの生活歴や入所前のサービス利用状況等を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活状況をしっかり観察し記録に残すことで、いつもと違う変化や気づきを職員間で共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の意向をお聞きした上で、介護計画を反映、作成している。毎月、モニタリングとケース会議で支援状況やご状態を確認し、計画に沿ってない場合や状態変化時は計画を変更している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいた内容を介護記録に記載し、勤務交代時の申し送りや連絡ノートを活用し、情報を共有しながら、日々のケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じて、ご利用者様・ご家族様のニーズに対応できるよう心がけている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な訪問理容の利用や、ボランティアからいただいたDVD鑑賞するなどし、ご利用者が安全で楽しく生活していただけるよう機会確保に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご本人様、ご家族様の意向を確認して協力医に変更し、訪問診療を受けている。専門医への受診はご家族が付き添い、ご利用者様の状態を電話かメモで伝え、報告を受けて情報を共有している。必要時は看護師が同行している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、介護を通して異常の有無を把握し、体調変化について、看護師に報告を入れ、医療的対応が受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は入所者サマリーにて情報提供をし治療中の生活に活かしていただき、退院時にはできる限りご利用者様の心身の負担がないよう、入院中の情報収集にも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に事業所の方針を説明し、ご本人様・ご家族様の意向を聴いている。状態変化に応じて、ご家族様と話し合い意向を確認し、書面を交わしている。終末期は医師・看護師からご家族様・職員に説明してもらい、方針を共有して取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会を行い、日ごろから各職員が適切に対応できるよう、介護職員間や看護師とも連携を図り、初期対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを活用し、年2回の防災訓練・水害時の訓練を実施している。2回目は夜間想定訓練。水害時は地域の避難待機所としている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室へ入る時は必ずノックと声掛けをし、プライバシーを侵害しないようにしている。 トイレ使用時カーテンを閉め、汚染された場合の声掛けにも配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から何気ない会話をさせていただくことで、こちらに声をかけていただき、気持ちを伝えていただける関係づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人が好きのように過ごしていただけるようお声かけや見守りを行い、何がされたいのか会話をしつつ、好きなことを少しでもできる機会を作れるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前の着替えの準備は立ち会っていただき、なるべくご自身で選んでいただけるようにしている。ご自身で整髪や髭剃りのできる方は、できるだけご自分でしていただけるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	身体状況に合わせた食事形態を考え、季節や要望を取り入れたメニューを提供し、おいしく召し上がっていただけるようにしている。 準備や片付けもできる範囲でお手伝いしていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人お一人の状態に応じて、摂取していただけるよう、栄養のバランスや水分量を確認して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる方に関しては、お声かけを行い見守り、ご自分で困難な方に関しては、スポンジブラシ、ガーゼ等を使用し、その方に合ったケア方法で清潔を保てるよう支援している。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員間の申し送りや排泄記録を参考にし、その方の排泄パターンに応じて、トイレ誘導やおむつ交換を行っている。排泄行為をせかさないう、便座に座っていただく時間等に配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝のおやつ時に、牛乳入りのコーヒーを提供させていただき、便秘予防をしている。また、ヨーグルトやバナナなどの食品を利用し、なるべく自然排便へつなげられるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	気持ち良く入浴していただけるように、その日の健康状態に合わせ、入浴日時の変更を行ったり、一般浴が難しい場合は機械浴で入浴できる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や体調に合わせ、日中でも休息できるようにしている。定期的に換気を行ったり、加湿器を使用したりし、気持ちの良い環境を整えるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の利用者様の服用されておられる薬に関するファイルがあり、いつでも目的等の内容が確認できるようになっている。忘れず服用していただくために、常にセット時から飲み込み確認までを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご希望を聞いたり、日々の会話の中から、ご興味のあることを引き出したりし、気分転換や楽しみ事へとつながるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍であるため、感染予防を行いながら、近隣を散歩している。 ご利用者の体力に応じた距離やご希望に添えるよう、個別に出かけたり、車いすを使用したりとどなたでも外に出かけられる。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で、一緒に出掛けれることが難しいため、ご利用者様からご要望がある場合、ご家族様に依頼し持参していただいたり、こちらの買い物時に購入させて頂いたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があった際、ご家族様と電話で会話できるようにお手伝いさせて頂いたり、お手紙のやりとりを行ったりし、コロナ禍でなかなか思うように面会できず、寂しい思いや距離感が遠くなってしまうようしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにご利用者様と一緒にポスターを作り掲示し、季節を感じていただけるようにしている。安全に移動できるよう、また異食の危険性を考え、動線に配慮している。トイレに消臭剤を置く等し、気持ちよく過ごしていただける空間づくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファがあり、気の合う方同士で、いつでも座っていただき、会話を楽しむことができる。テーブルの配置は、それぞれの方に落ち着いて生活していただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや入所前の家具を持参していただいたり、ご家族様の写真を飾られたり、ご本人様が安心して穏やかに過ごしていただけるよう配置等も考え、努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活しやすいように物の配置や危険性の考えられるものは置かないなど、安全な環境づくりに努めている。		